

桂川クラブ 自然観察會と「お互ひ様」

一二三朋子

この秋、地元の桂川クラブに入會せり。主なる活動は、京都市に流るる桂川周邊の自然観察及び、河原ないし公園などの定期的清掃なり。初参加は、嵐山に在る龜山公園内の自然観察なり。およそ五百メートルほどの道のりを三時間かけ、ゆつくりと歩を進めたり。その間、樹木の名前および生態に關する説明を受く。五十餘の名前を書き留めしも、残念ながら、樹木そのものは何も思ひ出すことを得ず。なれど、名前を知ることにて、自然を身近に感ずるは大なる收穫ならずや。

樹木以外にも幾種類かの蟲、見出しけり。中にも印象深きは、林毛蟻なり。木の幹に細い筋、上下に走る蟻道あり。林毛蟻、蟻道の中にて、油蟲を飼育し、その榮養分を得るなり。いはば家畜を飼ふ蟻ならむ。中南米の葉切蟻は、茸を育て女王蟻に供すといふ。こは農業をする蟻なり。

自然界は共生によりてこそ成立せらるれといふも、過言ならず。生きとし生けるものの奥には、肉眼にて見ること能はずとも、様々なる共生、共存共榮の關係あり。生態系は、目に見えざる網の目の如く緊密に結び付けられて秩序を維持するものならむ。極一部の綻びといへども、全体の秩序の崩壊につながるは、言はずもがななり。

毛澤東、穀物を喰ふ害獣として雀の絶滅を命ぜしことあり。雀殲滅政策の結果、それまで雀の食せし蝗（イナゴ）、浮塵子（ウンカ）などの害蟲、大量發生し、農業は壊滅的打撃被り、大飢饉もたらされ、數千万人餓死せりといふ。眼前の利益に眼を晦ましし愚策といふ他なし。

自然界の共生關係、人間社會に例ふれば「お互ひ様」の關係ならむ。困りたる時には助け、助けらる。「お互ひ様」なむ、助けられし者の心の負擔を軽くせむ言葉なる。かくも寛容なる言葉こそ、人間社會を圓滑にし、平和の實現にも貢獻せむ言葉ならめ。「勿體ない」なる言葉と共に、世界に發信せむはいかなりや。

（令和七年十月十七日受附）